

畜産情報ノート

第2号

令和4年9月15日

島根県畜産技術センター

〒693-0031 島根県出雲市古志町 3775

URL=https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gij

今号の
内容

トピックス

- 「寿久」号 を基幹種雄牛に選抜！
- スマート放牧シンポジウムを開催

研究紹介

- 放牧場における放牧牛の位置及び草生の把握技術の実証試験
- 「発酵 TMR」ってどんなもの？

技術情報

- 子牛の寒冷対策について

- 令和4年度下期新規交配種雄牛の紹介
- 担い手の技術研修の受け入れ実施中

- 飼料用トウモロコシの栽培実証試験

- 水田裏作で取り組む飼料作物栽培のポイント

トピックス

BMSNo・脂肪の質がトップレベルの「寿久」号 を基幹種雄牛に選抜！

令和4年8月8日に初の「久茂福」の息牛である「寿久」号が基幹種雄牛に選抜されました。

特に BMS No. については平均 9.5 で「奥華栄」号と並ぶ島根県歴代1位の成績を記録しました。

育種価では、BMS No. と同様に脂肪の質 (MUFA) についても高く評価され、牛肉のおいしさの改良も大いに期待できます。

また、母「ゆりひめ」は第11回全共第5区(繁殖雌牛群)の出品牛であり、「寿久」も母の美点を受け継ぎ、体型の改良が可能です。

後代検定では、母方2代祖、3代祖に気高系、糸桜系の父を持つ検定牛の成績が良かったことから、糸桜系、気高系への交配をお願いします。



生年月日 平成 29 年 1 月 17日
産地 仁多郡奥出雲町 井上 昭
血統 久茂福 - 百合茂 - 茂重桜

歴代1位！ 高評価！

●検定成績

	枝肉重量 (kg)	ローズ芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	推定歩留	BMS No.	MUFA	5等級率
全体平均 【17頭】	497.9	71.4	8.4	2.8	75.5	9.5	63.2%	88.2%
去勢平均 【12頭】	507.2	71.9	8.7	2.9	75.5	9.6	62.8%	91.7%
雌平均 【5頭】	475.7	70.2	7.8	2.6	75.5	9.2	65.9%	80.0%

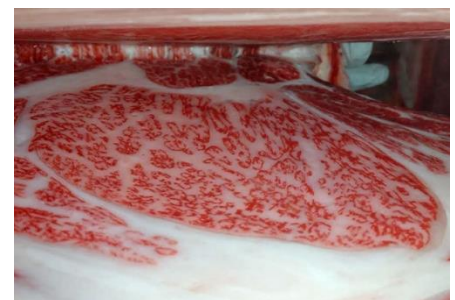
* MUFA（一価不飽和脂肪酸）は、脂肪の質を示しています。

優良枝肉成績の検定牛（BMSNo. 10 以上）

性	2代祖	3代祖	枝肉重量	ローズ芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	推定歩留	BMS No.	MUFA
去勢	茂弘松井	恵茂勝	578.0	87	9.4	2.6	77.0	12	62.8
去勢	百合勝安	茂弘桜	495.2	75	8.7	2.8	76.3	12	56.4
去勢	芳之国	茂重桜	499.0	90	9.3	2.4	79.0	11	63.5
去勢	美津照重	百合茂	488.2	81	8.0	2.0	77.4	11	60.9
去勢	隆之国	茂重桜	478.6	65	8.4	3.7	74.0	11	59.7
去勢	勝照茂	平茂勝	460.6	61	8.7	3.8	74.0	10	64.9
雌	安福久	勝忠平	462.0	89	8.4	2.2	78.9	11	67.3
雌	百合勝安	平文勝	589.0	78	8.6	2.5	75.7	11	未測定



去勢、ローズ芯面積 87cm²、BMS No.12



雌、ローズ芯面積 78cm²、BMS No.11

令和4年度下期新規交配種雄牛の紹介 ～ 新規交配の御協力をお願いします ～

令和4年11月 新規交配 「百合将福（ゆりまさふく）」

「百合将福」のゲノム育種価は、全ての枝肉形質において高い評価を受けており、特にローズ芯面積、歩留基準値、脂肪交雑が優れています。

父は、「百合久勝」で、母の父「久茂福」が母体となる初めての種雄牛です。

生年月日 令和3年4月11日
産地 島根県 畜産技術センター
血統 百合久勝-久茂福-百合茂



また、祖母「ありさ」号は、産子の出荷成績3頭のうち2頭が2ケタ（BMS No11）を記録した高能力牛であり、父方母方の高い能力を受け継ぎ、肉量・肉質の改良が大いに期待できます。交配は糸桜系および兵庫系の若い雌牛を中心にお願いたします

令和4年12月 新規交配「清隆福（きよたかふく）」

第12回 全共
若雄区 県代表牛

第12回全共第1区（若雄）の島根県代表牛であり、発育や体積に富み、種牛性に優れています。

父は「百合五月」で、母「かつきよたかふく」は仁多郡和牛育種組合の育種牛で「きよたか系」の系統牛、祖母「ふくひら1」号は第11回全共繁殖雌牛群の出品牛、曾祖母「ふくひら」号は第10回全共高等登録群の出品牛であり、母方3代が登録点数85点以上を挙げるなど、体型に優れた形質を引継いでおり、体型面での改良が期待されます。交配は糸桜系および兵庫系の若い雌牛を中心にお願いたします。



生年月日	令和3年2月2日
産地	仁多郡奥出雲町 金倉弘美
血統	百合五月 - 勝洋 - 茂福花

スマート放牧シンポジウムが開催されました

令和4年9月7日、8日に、中山間地域のスマート放牧シンポジウムを開催しました。8日の現地会場となった三瓶山の麓にある公共放牧場では、荒廃農地から放牧地への再生モデルとして、GPSによる放牧牛監視や牧柵の遠隔監視といったスマート放牧管理の実装試験を実施中です。

このシンポジウムでは、多くの方に参加いただき、ICT機器を活用した放牧管理を肌で感じてもらいました。詳しい内容は、当センター繁殖技術科（0853-21-2631）までお問い合わせください。



シンポジウムの様子（三瓶公共放牧場）

担い手養成・畜産技術員の技術習得の研修受け入れを実施中

令和4年4月から、当センターでは、酪農担い手の育成や畜産技術員の養成のため、技術研修の実習受け入れを行っており、現在、就農を目指す3名の方が、研修されています。また、獣医師を目指す、大学生等のインターンシップの受け入れも実施しております（22名：8月現在）。

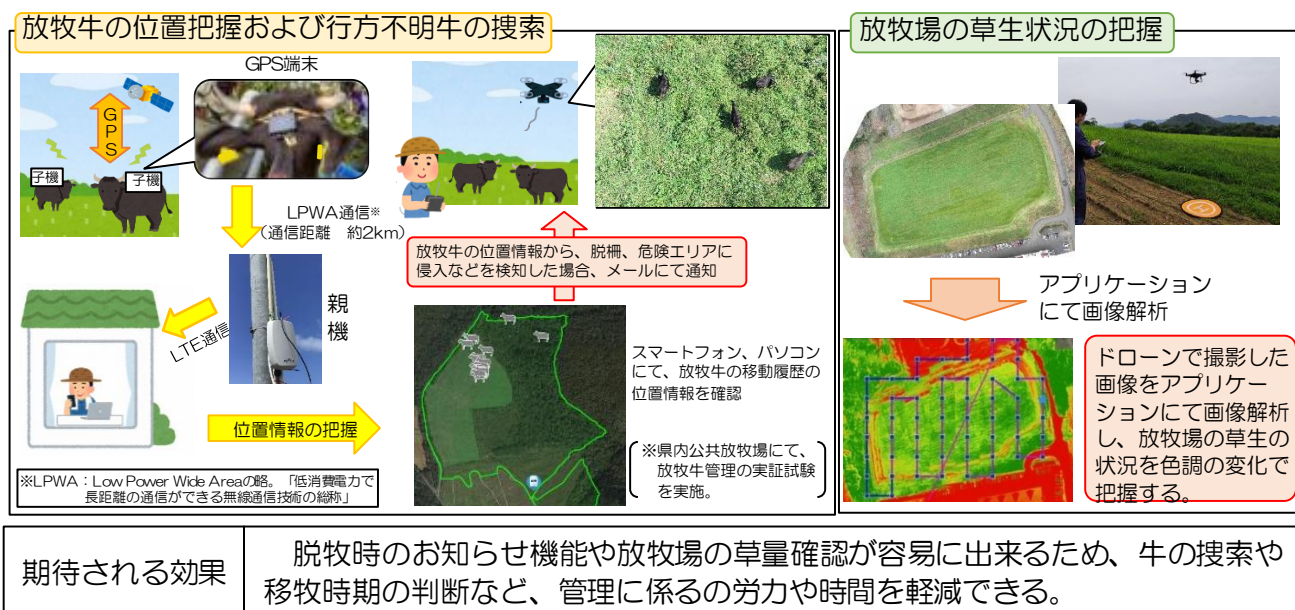


研修の様子（乳牛の搾乳）

研究紹介

放牧場における放牧牛の位置及び草生の把握技術の実証試験 (繁殖技術科)

省力化や低コストが図れる放牧は、県内の多くの肉用牛農家で取り組まれており、特に隠岐では、広大な放牧場が利用されています。このような広い放牧場では、放牧牛が行方不明となることがあり、牛の捜索に多くの労力と時間を要しています。このような課題を解消するため、当センターではGPSやドローン等のICT機器を活用して、効率的な放牧場の維持や放牧牛の観察等の管理を省力化することができるかをテーマに実証試験に取り組んでいます。



飼料用トウモロコシの栽培実証試験

(酪農・担い手支援科)

直近の飼料価格の暴騰を受け、対応策の一助として島根県版の飼料用トウモロコシ栽培実証試験を緊急的に実施しました。

協力農場及び場内圃場3haにて極早生品種(ニューデント105、4月播種)および早生品種(スノーデント115、6月播種)の試験栽培を行い、極早生品種は約7,300kg/10a、早生品種は約6,700kg/10aと良好な収量を得ることができました。

イタリアンライグラス圃場の後作や水田園芸作物の裏作栽培用に極早生品種の利用を推進することで、県内産の飼料用トウモロコシの生産拡大が可能となり、自給飼料を活用した足腰の強い経営につながることを確認できました。



「発酵 TMR」ってどんなもの？

(肉用牛科)

当センターでは「肥育期の粗飼料割合が脂肪の質に及ぼす影響」についての試験をしており、一定の成分濃度の飼料を安定的に食べさせるため発酵 TMR を給与しています。今回は、TMR 給与のメリットや当センターでの発酵 TMR 調製方法を紹介します。

TMR (完全混合飼料) とは

牛が必要な養分を過不足なく摂取できるように混合した飼料です。当センターでは、特に地域資源の稲 WCS や酒粕など食品残さを材料として利用しています。

発酵 TMR とは

TMR を密封貯蔵し、発酵させたものです。発酵により保存性が高まり、変質しやすい食品残さ、自給飼料を長期保存することができます。

TMR のメリット

群飼育でも選び食いが起こりにくいことや、どの肥育ステージでも飽食給与が可能であるなどのメリットがあります。

詳しい内容は、当センター肉用牛科 (0853-21-2631) までお問い合わせください。

畜産技術センターでの発酵TMR調製の作業体系

①TMRミキサーへ原材料を投入し、水分が40%程度になるよう加水して混合



②梱包機(細断型ロールペーラ)にTMRを投入し、ロール状に成形



③ラッピングマシンにロールを積み込みフィルムでラッピング

1か月程度発酵させて牛に給与します。



技術情報

子牛の寒冷対策について

これからの冬季に向けて、哺乳子牛への寒冷対策を紹介します。

哺育子牛は体表面が大きく、筋肉や第1胃が未発達です。適温域が13~25℃と育成牛や繁殖雌牛に比べて低温に弱いため寒冷の影響を受けやすく、寒冷ストレスから発育不良や病気の発生につながる場合があります。

◎エサによる対策

人工哺育の場合は哺乳量を増やす、自然哺育の場合は追加哺乳を実施するなど摂取エネルギーを確保する。

◎牛舎対策

敷料を厚くする、スノコやお風呂マットを敷くなどお腹を冷やさない対策をとる。

ヒーターやカーフジャケット (右写真) などで保温する。



カーフジャケットの例

すきま風を防ぐため、ハッチやコンパネ（右写真）を設置する。

注意点：気密性が高まるとアンモニアなどの有害成分がこもりやすくなるため、定時の換気を行う。



コンパネ、ヒーターを使用した対策例

水田裏作で取り組む飼料作物栽培のポイント

世界的に情勢が不安定となっている中で輸入飼料の高騰が続いており、自給飼料を活用した経営の安定化を図っていく必要があります。今回は水田裏作で飼料作物を栽培する際のポイントを紹介します。

①徹底した排水対策

具体的な排水対策としては、溝切り、畝立て、明きよなどによる地上排水、暗きよの施工による地下排水があります。

②ほ場に適した品種選定

水田裏作ですので栽培期間が限られます。イタリアンライグラスの極早生・早生品種、エンバクやライムギ等を選定します。また、耐湿性に優れた品種を選定します。

③堆肥を活用した施肥設計

堆肥は2～3 t / 10a を施用します。基肥としては化成肥料で窒素、リン酸、カリウム各5～6kg / 10a 程度投入してください。化成肥料も高騰していますので、土壌分析を行うなど、適正な施肥に努めます。

④栽培する飼料作物の品種選定、施肥設計等は、

島根県飼料作物・牧草奨励品種の紹介ホームページを参考としてください。

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/seisan/chikusan_shinkou/siryou/



排水対策（額縁明きよ）

編集後記

収束が見えないコロナ禍、災害級の飼料価格の高騰、記録的な猛暑。

人にも、家畜にも厳しい今年の夏でした。

昨年、イノシシ被害に見舞われた場内のトウモロコシ生産は、今年、酷暑の中、獣害対策を行った甲斐もあり、被害無く収穫することが出来ました。

さあ10月には、5年に一度の全国和牛能力共進会が鹿児島県で開催されます。

上位入賞を果たし、しまね和牛の名声を全国に届けたいものです。

厳しい夏の後、豊かな実りを迎える秋となるよう、皆さん頑張りましょう！！(F)

発行 島根県畜産技術センター 〒693-0031 島根県出雲市古志町 3775

電話：0853-21-2631 FAX：0853-21-2632 Eメール：chikugi@pref.shimane.lg.jp